



四半世紀
ぶりの・
回顧展

小出栄重



Koide Narashige:
In Pursuit of Oil Painting
for the Japanese

新しき油絵

2025年9月13日^土—11月24日^{月・休}
10:00-17:00 (入場は16:30まで)

*9/13(土)、9/14(日)のみ10:00-19:00(入場は18:30まで)

休館日=月曜日、10/14(火)、11/4(火)

*9/15(月・祝)、10/13(月・祝)、11/3(月・祝)、11/24(月・休)は開館

小出栄重《卓上静物》1928年 京都国立近代美術館

主催=大阪中之島美術館

特別協力=芦屋市立美術博物館

助成=一般財団法人 安藤忠雄文化財団

会場=大阪中之島美術館 4階展示室



大阪中之島
美術館
NAKANOSHIMA MUSEUM OF ART, OSAKA



展覧会概要

大阪市出身で、大正から昭和初期にかけて活躍し、日本人としての油彩画を追求し続けた画家、小出楳重（1887 – 1931）。特に裸婦像は「裸婦の楳重」と称されるほどの独自の様式に到達し、日本女性の裸身を絵画上に魅力的に表現しました。四半世紀ぶりの本格的な回顧展となる本展では、楳重の創作を各時代の代表作とともにたどり、画家が求めた独自の表現について再考します。また、油彩画のみならず、ガラス絵、挿絵、装幀、随筆などに発揮された多彩な才能もあわせて紹介します。さらには、設立者の一人となり、1924年（大正13）に大阪市西区に開設された信濃橋洋画研究所を特集。楳重の教育者としての活動を振り返ります。日本近代洋画史上稀有な才能を発揮した楳重について、その魅力を再発見する機会となるでしょう。

みどころ

1 25年振りの本格的な回顧展

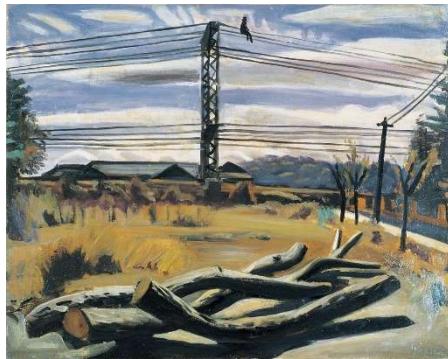
初期の東京美術学校時代の作品から絶筆に至るまで、その画業の全貌をご覧いただきます。

2 「裸婦の楳重」の代表作が一堂に

画業の後半に制作された数々の裸婦像。年を経るごとに洗練され、独自の様式を作り上げる過程を、代表作によってたどります。

3 油彩画にとどまらない多岐にわたる活動

ガラス絵、日本画、挿絵、装幀、随筆など、様々な分野で発揮された多彩な才能をご紹介します。



左：小出楳重 《Nの家族》（重要文化財）

1919年 大原美術館

右：小出楳重 《枯木のある風景》

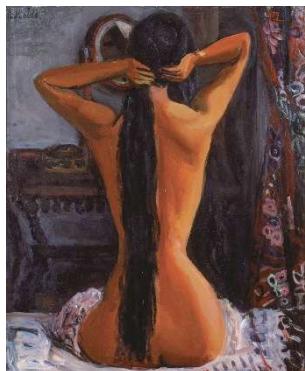
1930年 公益財団法人ウッドワン美術館



小出楷重とはどんな画家？

■ 楷重芸術の真骨頂、「裸婦」の表現に寄せる思い

裸婦のテーマは楷重芸術の真骨頂であり、生前から「楷重の裸婦」「裸婦の楷重」と称されるなど高い評価を得ていました。画家が追求したのは、日本人ならではの美しさの表現です。「大体、私自身は西洋人よりも日本のの方が好きなのだ。それで裸体を描く時にでも私は決して理想的なものを求めたくない」と述べたように、楷重は日本人が西洋人と比べて不体裁とされる特徴、すなわち胴の長さや太ももの大きさ、足の短さなどをあえて強調するように、身体をデフォルメして描きました。モデルの人格や個性を意識しないよう、顔が描かれていないか、描かれていても単純化されていることも特徴の一つです。また、日本人の肌の色が、西洋人にはない温かみを持っていると感じた楷重は、黄色や赤、淡い緑などを用いて、複雑な色合いと滑らかな肌の質感を巧みに表現しています。



左：小出楷重 《裸女結髪》
1927年 京都国立近代美術館
右：小出楷重 《横たわる裸身》
1930年 石橋財団アーティゾン美術館

■ ユーモアに満ちた会話と指導力で周りを魅了した楷重

小出楷重は自らを「骨人」と呼ぶほどやせ細っており、身体も丈夫ではありませんでした。彼が数多く描いたのが室内的静物画や裸婦像であったのも、健康面が理由の一つです。20代のうちはなかなか芽が出ず、30歳を過ぎて二科展で評価を得、遅咲きのデビューを果たすと、関西での評判はすぐに高まっていきました。直々にアトリエを訪ね指導を願う若者も現れ、みなその指導力はもとより、皮肉とともにユーモアのある会話に魅せられたといいます。楷重の独特の言葉のセンスは、数多く残された隨筆にも発揮されています。43歳で早世した楷重の絶筆は《枯木のある風景》で、この作品に着想を得て宇野浩二が小説「枯れ木のある風景」を執筆しました。



アトリエの小出楷重 1928年2月
画像提供：芦屋市立美術博物館



■ その驚くべき制作技法、権重が芸術的価値を高めた「ガラス絵」とは！？

ガラス絵は文字通りガラスに描いた絵で、絵具をのせた反対の面から鑑賞するものです。制作は通常と逆の手順となり、一般的な絵画では最後に描くもの（例えばサインなど）を最初に、左右反転した状態で描き込む必要があります。江戸時代に日本に渡来したガラス絵は、明治時代には工芸品の一部に用いられていましたが、芸術品ではありませんでした。ガラスという素材に愛着があった権重は、試行錯誤しながらガラス絵の技法を確立し、芸術としての価値を高めました。権重のガラス絵の特徴には、手の中に収まるほどの小ささと、額縁にも凝っていることが挙げられます。

関連イベント

*最新のイベント情報は展覧会公式サイトをご覧ください。

■ 講演会1「小出権重—都市の肖像」

講師：山野英嗣（前和歌山県立近代美術館館長）

開催日時：2025年9月27日（土）14:00 – 15:30（開場：13:30）

会場：大阪中之島美術館1階ホール

定員：150名（先着順、事前申込不要）

参加費：無料 *本展観覧券(利用後の半券可)が必要です。

■ 講演会2「小出権重—100年前の大阪・危機意識（クリティシズム）の画家（仮）」

講師：熊田司（美術史家）

開催日時：2025年11月3日（月・祝）14:00 – 15:30（開場：13:30）

会場：大阪中之島美術館1階ホール

定員：150名（先着順、事前申込不要）

参加費：無料 *本展観覧券(利用後の半券可)が必要です。

開催概要

展覧会名 小出権重 新しき油絵

会期 2025年9月13日（土）– 11月24日（月・休）

休館日：月曜日、10/14（火）、11/4（火）

*9/15（月・祝）、10/13（月・祝）、11/3（月・祝）、11/24（月・休）は開館

開場時間 10:00 – 17:00（入場は16:30まで）

*9/13（土）、9/14（日）のみ10:00 – 19:00（入場は18:30まで）

観覧料 一般1700円（団体1500円）

高大生1200円（団体1000円）

中学生以下無料

*税込価格。 *2025年8月13日（水）10:00から販売開始予定

*団体料金は20名以上。団体鑑賞をご希望される場合は事前に大阪中之島美術館公式ホームページからお申込みください。



*学校団体の場合はご来場の4週間前までに大阪中之島美術館公式ホームページ学校団体見学のご案内からお申込みください。

*障がい者手帳などをお持ちの方（介護者1名を含む）は当日料金の半額（要証明）。

ご来館当日、2階のチケットカウンターにてお申し出ください。（事前予約不要）

*本展は、大阪市内在住の65歳以上の方も一般料金が必要です。

*事前予約制ではありません。展示室内が混雑した場合は、入場を規制する場合があります。

*災害などにより臨時休館する場合があります。

企画チケット

[2枚セット券] 3200円

（一般のみ、販売期間＝2025年8月13日（水）10:00 - 9月12日（金）23:59）*大阪中之島美術館チケットサイトのみで販売

[相互割引] 本展観覧券（半券可）の提示で、5階で開催される

「新時代のヴィーナス！アール・デコ100年展」2025年10月4日（土）- 2026年1月4日（日）の
当日券を200円引きでご購入いただけます。

（1枚につき1名様有効。チケット購入後の割引および他の割引との併用は不可）

*大阪中之島美術館2階チケットカウンターでのみ販売

チケット販売場所 大阪中之島美術館チケットサイト、ローソンチケット（Lコード：52247）、ローソン各店舗

会場 大阪中之島美術館 4階展示室

主催 大阪中之島美術館

特別協力 芦屋市立美術博物館

助成 一般財団法人 安藤忠雄文化財団

美術館公式ホームページ <https://nakka-art.jp/exhibition-post/koide-2025/>

お問い合わせ 06-4301-7285 大阪市総合コールセンター（なにわコール）*受付時間8:00 - 21:00（年中無休）

報道関係者

【「小出楷重 新しき油絵」オンライン・プレスリリース | ARTPR 】

<https://www.artpr.jp/nakka-art/koidenarashige2025>

お問い合わせ先

「小出楷重 新しき油絵」広報事務局（株式会社FAITH内）

担当：小林、松本

Email：koidenarashige.exhibit.pr@gmail.com